

第2回小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会

会議録

日時	令和4年5月13日(金) 18:30~19:45	場所	文京区立小日向台町小学校 体育館
委員 事務局	<p><委員> (出席)</p> <p>委員長 八木 茂</p> <p>副委員長 木村 健</p> <p>委員 長谷川 博康</p> <p>委員 福田 恵</p> <p>委員 馬場 麻衣子</p> <p>委員 春名 正昭</p> <p>委員 酒井 美津子</p> <p>委員 野村 忠昭</p> <p>委員 伊藤 博之</p> <p>委員 田中 純一</p> <p>委員 吉羽 優子</p> <p>委員 宮原 直務</p> <p>委員 赤津 一也</p> <p>委員 石川 浩司</p> <p>委員 新名 幸男</p> <p>委員 大畑 幸代</p> <p>学識経験者 土田 寛</p> <p><委員> (欠席)</p> <p>委員 (茗荷谷町会)</p> <p><事務局></p> <p>熊野 巧 (教育推進部学務課)</p> <p>谷津 星駿 (教育推進部学務課)</p> <p><コンサルタント></p> <p>株式会社マヌ都市建築研究所: 板谷 龍二郎、道家 祥平、小松 妙子</p>		
次第	<p>1 開会</p> <p>2 委員委嘱</p> <p>【資料第1号】文京区立小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会委員名簿</p> <p>3 幼稚園・児童館・育成室との一体的改築について</p> <p>4 必要諸室等の考え方について</p> <p>【資料第2号】令和4年度小日向台町小学校施設台帳</p> <p>【資料第3号】令和4年度小日向台町小学校将来需要 (必要となる教室数)</p> <p>【資料第4号】小日向台町小学校と改築校の諸室数及び面積 (比較表)</p> <p>5 その他</p> <p>・小日向台町小学校の増築工事の進捗について</p>		

	【資料第5号】小日向台町小学校増築工事スケジュール ・今後のスケジュールについて 6 閉会
--	---

議事録

1 開会

○事務局：定刻となりましたので、只今より第2回文京区立小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会を始めさせていただきます。本日は、ご多忙の所、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局を務めます教育委員会学務課施設担当の熊野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の委員の出欠状況について、ご報告申し上げます。茗荷谷町会につきましては本日欠席のご連絡をいただいております。また、アドバイザーの土田委員は到着が遅れるとの連絡が入っております。

次に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。資料第1号から資料第5号まで配付しております。ご確認いただきまして、過不足等はございませんでしょうか。

また、今回の検討委員会より委員となった方には席上に委嘱状を置かせていただきました。こちらも併せてご確認ください。

2 委員委嘱

○事務局：それでは次第に沿って進めさせていただきます。資料第1号をご覧ください。

こちらは文京区立小日向台町小学校等改築基本構想検討委員会委員名簿でございます。今回は新年度1回目の検討委員会であり、一部委員の改選がありましたので、改めて自己紹介をお願いいたします。八木委員長より順にお願いいたします。

○教育推進部長 八木委員長：こんばんは。教育推進部長の八木でございます。当委員会の委員長を務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日、雨の中、お忙しい中お越しいただき、ありがとうございます。

○学務課長木村副委員長：皆さま、こんばんは。副委員長の学務課長の木村です。どうぞ宜しくお願いいたします。

○小日向台町小学校校長 田中委員：当校校長の田中純一です。よろしくお願いいたします。

○小日向台町幼稚園園長 吉羽委員：小日向台町幼稚園園長の吉羽です。よろしくお願いいたします。

○小日向台町小学校PTA会長 長谷川委員：小日向台町小学校 PTA 会長の長谷川です。よろしくお願いいたします。

○小日向台町幼稚園PTA会長 福田委員：小日向台町幼稚園 PTA 会長の福田です。よろしくお願い

いたします。

○小日向台町小学校同窓会会長春名委員：小学校同窓会長の春名です。よろしくお願いいいたします。まず、伺いたいのですが、椎の木については同窓会の皆もどのようになるか気にしています。もう一つは校門の左手に佐藤八郎の石碑がありますが、これも移築でしょうか。

○事務局：そういったことも含めて本委員会でご検討していければと思います。この場ではご要望という形でお伺いさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。

○小日向台町第一育成室・第二育成室父母会 馬場委員：小日向台町育成室父母の会の馬場です。よろしくお願いいいたします。

○古川松ヶ枝町会・会長 野村委員：古川松ヶ枝町会の野村です。古川松ヶ枝町会をご存知かと思いますが、川の向こう側になります。こちらからですと坂を下って行って、一番遠いところになります。よろしくお願いいいたします。

○小日向台町町会・会長 酒井委員：小日向台町町会会長の酒井です。よろしくお願いいいたします。

○大塚青少年健全育成会・会長 伊藤委員：大塚青少年健全育成会会長の伊藤です。よろしくお願いいいたします。

○事務局：茗荷谷町会につきましては委員推薦について調整中といただいておりますので、本日は欠席となります。

○教育指導課長 赤津委員：教育指導課長の赤津です。よろしくお願いいいたします。

○児童青少年課 長石川委員：児童青少年課長の石川です。よろしくお願いいいたします。

○教育推進部副参事 宮原委員：教育推進部副参事の宮原です。よろしくお願いいいたします。

○整備技術課長 大畑委員：整備技術課長の大畑です。よろしくお願いいいたします。

○企画課長 新名委員：企画課長の新名です。よろしくお願いいいたします。

○東京電機大学未来科学部建築学科教授 土田アドバイザー：本日は遅れまして、申し訳ございません。東京電機大学の土田と申します。よろしくお願いいいたします。

○事務局：また、事務局の補助といたしまして、マヌ都市建築研究所よりご参加いただいております。

○事務局（コンサルタント）：マヌ都市建築研究所の板谷と申します。よろしくお願いいたします。マヌ都市建築研究所の道家です。よろしくお願いいたします。マヌ都市建築研究所の小松です。よろしくお願いいたします。

○事務局：ありがとうございました。最後に、事務局は私、熊野と同じく学務課施設担当の谷津でございます。よろしくお願いいたします。本検討委員会におきましては、学校、PTA、近隣町会、並びに自治会等の関係者の皆様方から、地域の課題や特性等、広くご意見を伺いながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

これにて自己紹介は終了いたします。ここで、検討委員会の委員の追加につきまして、八木委員長からご報告させていただきます。

○八木委員長：次第にはありませんが、本年4月に小日向台町小学校では、地域学校協働本部を立ち上げました。地域学校協働本部では、地域と学校が子どもたちの育成方針などを目指すべき方向性を共有し、両者が連携して教育活動や教育支援活動を行うことを目的としています。今回、学校側から地域学校協働本部のメンバーを委員に加えたい旨、要望があったため、事務局にて要綱を改正し、次回より委員として検討委員会にご参加いただけるよう進めています。ご了承の程お願いいたします。以上ご報告となります。

3 幼稚園・児童館・育成室との一体的改築について

○事務局：一体的改築についての検討に移ります。これより司会進行は八木委員長よりお願いいたします。

○八木委員長：次第の3に移ります。こちらは、「幼稚園・児童館・育成室との一体的改築について」という内容です。まず、一体的改築についての検討を始める前に、前回（昨年11月30日開催）の内容について振り返ります。

前回の検討委員会では、当委員会の進め方を確認した後、小日向台町小学校の現状について事務局より説明いたしました。また、小日向台町町会・酒井委員より、校庭などゆとりある環境の中で子どもたちに育ってほしいとの要望をいただいております。

また、小日向台町育成室父母の会・高山委員より、育成室入室希望者の増及び施設の老朽化など育成室の現状についてのお話をいただいた後、小学校と幼稚園・育成室との連携についてご意見いただきました。また、古川松ヶ枝町会・野村委員より、学校敷地の一部にかかっている都市計画道路、通称環三の影響についてご質問をいただきました。

また、小日向台町小学校同窓会・春名委員より外観の円形の意匠を復元的に改築することの可否、校歴室や同窓会室の整備についてご要望いただきました。

以上のご意見を踏まえ、小日向台町小学校については改めて、改築をする方向で検討を進めるということで、皆様からご了承をいただきました。したがって、本日は改築をする場合の範囲についてご意見をいただきたいと思っております。お手元の事前に配付しましたアンケート用紙は、メモの用途でご活用い

ただければ、ご発言しやすいと考え用意いたしました。こちらをお使い頂きながら、お考えをお伺いしたいと思います。

改築する施設について「ア」は小学校のみ、「イ」は小学校及び幼稚園、児童館・育成室との一体的改築のどちらかを選び、その回答についての理由をお聞かせいただければとお願いをしておりました。それでは、皆様のご意見を小日向台町小学校PTA・長谷川委員より順番に伺ってまいります。

○長谷川委員：改築については「イ」の小学校、幼稚園及び児童館、育成室の改築ということで考えた方が良いと思っております。小学校の児童の子が幼稚園から進学してくることや、児童館や育成室に関係があるとのことで、全体も含めて改築をすることが良いと考えております。それらを意識していただきたく思います。

○福田委員：長谷川さんと概ね同じ意見ですが、一体的改築が良いと思います。先程のお話にもありましたが、小日向台町幼稚園から同じ小学校にそのまま進学される方が多く、交流の機会もあります。年長さんになると、小学校への憧れと親近感という部分で気になってくるところではあるかと思えます。一体的改築だとさらに良いのではないかと考えています。

○春名委員：私は小学校のみの改築が希望で、工期をなるべく短くして早急にやるべきだと考えています。同窓会の母体は、同窓会が生き残ることができるのだろうか和現在考えています。そのため、会費の振り込み通知も学校に届かない様に私宛に変更しました。とにかく、できるだけ工期を短くして小学校のみ改築した方が良いと思っています。

○馬場委員：育成室に毎日お迎えに行っていますが、建物の老朽化を肌で感じています。地震の心配もありますので、小学校と一緒に改築していただけると安心だと思っております。

○野村委員：私も「イ」を選びました。改築において設計の自由度の高いそれ程良い土地がある訳ではないので、小学校と一緒に改築した方が有効的な改築設計が出来るのではないかと考えています。もし小学校だけを改築するとなると、この学校は本当にそれだけ広いのでしょうか。建築年数から見ると、私の近所の新宿区立江戸川小学校は小日向台町小学校より少し古いはずですが、改築をして耐震工事をして、もう少し長く使うような想定になっています。小学校の校舎のみの改築であるならば、そのような方法もあるのではないかと思っています。改築するのであれば幼稚園なども一緒に有効活用することを考えた方が良いと思います。

○酒井委員：建築期間中に仮校舎などをこの敷地内で全て賄うならば、小学校のみの建て替えでは、校庭をゼロにしても工事の段取りに相当な無理が生じるのではないかと思っています。全て建替えてしまった方が良いと思います。

○伊藤委員：私は地元の人間ではないため、基本的な考え方を述べます。一体的改築をした方が機能的な設計方法や利用方法などを確立できるのではないかと思っています。何よりもこれから入ってくる

子どもたち、先生方が使い勝手の良い、居心地の良い環境作りを念頭において、それを優先的にやるべきだと思っています。

○八木委員長：ご意見を皆様からお伺いしたところ、6名の方が一体的改築、1名の方が小学校のみの改築ということでご意見をいただきました。それについていかがでしょうか。確かに、小学校のみの改築だと建築期間は短いです。先程も様々な意見がありましたが、現在も幼稚園、児童館、育成室がある中で、子どもたちの育つ環境では一体感があって良いのではないかという意見、それから工事の心配もありました。土地を有効活用するためには、敷地を広く使える一体的改築の方が良いのではないかなど、このようなご意見をいただきました。総合的に判断をすると、「イ」の一体的改築が皆様の多数意見だったのですが、この意見で会を取りまとめてもよろしいでしょうか。

○野村委員：同窓会長さんからもう少しご意見があればと思ったのですが、いかがですか。

○春名委員：こういう会議では全員賛成ということにはならないですね。議論は、反対の意見もあった方が良いのではないのでしょうか。皆様が一体的改築した方が良いというのであれば、その方向で進めた方が良いと思います。

○八木委員長：ありがとうございました。

それでは、皆様のご意見が一致したと判断させていただきまして、これ以降、幼稚園・児童館・育成室を含めた一体的改築の方向性で議論を進めてまいります。どうぞよろしくお願い致します

4 必要諸室等の考え方について

○八木委員長：次第の4「必要諸室等の考え方」に移ります。

先程、一体的改築ということで検討委員会の合意をいただきました。今回の資料としては小学校部分のみを配付しております。必要な教室、その他どういったものがあるのかについて、事務局より資料説明を致します。

○事務局：それでは、資料第2号をご覧ください。こちらの資料は小日向台町小学校の令和4年度の配置図です。1枚目が全体図、2枚目と3枚目が1階から3階の平面図です。

現在、小日向台町小学校につきましては、普通教室が1階に1教室、2階に7教室、3階に10教室の計18教室あります。

現在、普通教室に転用できる諸室がないという状況となっております。

続きまして、資料第3号をご覧ください。こちらは、令和4年度から令和9年度までの小日向台町小学校の将来需要となります。表の左側には令和9年度までの児童数の推計、右側には学級数の推計を記載しています。また、色塗りで表示されている箇所については、児童数が1名増えた場合に学級数が1学級増える学年を示しています。例えば、令和4年度をご覧くださいと、現在5年生は80人ですが、40人で1クラスですので、1名増えますと2学級から3学級になります。その5年生は翌年度から6年生になり、表の児童数はそのままスライドしていきます。また同様に、令和5年度では1年生が105

人となっておりますが、35人で1クラスですので、あと1名増えれば3学級から4学級となります。翌年度以降はそのままスライドしていきます。そして、一番右に記載しております上振時の欄は、先程のように児童数が増加し、学級数が増えた場合における最大学級数を示しているものとなります。資料第2号でもご説明した通り、令和4年度の学級数は18学級でございますが、既存校舎の中で普通教室に転用できる諸室は現在ありません。後程ご説明いたしますが、増築校舎を建築した場合には、令和5年度中に既存校舎内で、普通教室に転用できる諸室が3教室確保できますので、21教室まで対応可能となります。

続きまして、資料第4号をご覧ください。こちらは小日向台町小学校と改築校である柳町小学校の諸室数と面積を比較したものでございます。まず、「1保有諸室及び室数」についてです。現在の小日向台町小学校の普通教室は18教室ですので、同規模の普通教室数である改築校の柳町小学校を参考に作成いたしました。改築後の柳町小学校では、少人数教室を各学年1教室ずつ計6教室確保することで、今後児童数が増加し、学級数が増えた場合、全学年4学級となった場合にも対応できるように設計しています。加えて、理科室や音楽室、図工室などの特別教室についても各2教室を用意し、ランチルームや和室、多目的室を設置する予定です。また、防災備蓄倉庫については、新しい体育館が3階に位置するため、校庭と校舎の4階にそれぞれ配置する計画となっております。

次のページをご覧ください。「2面積比較」となります。現在、タブレット端末など、多様な学習環境に対応するため、改築校の柳町小学校では、普通教室が広めに設定されています。また、特別教室は普通教室の1.5倍程度の広さを確保しています。小日向台町小学校の必要諸室等の考え方について、改築校の柳町小学校を参考にさせていただき、ご意見をいただければと考えております。

事務局からの説明は以上となります。

○八木委員長：小日向台町小学校校長である田中委員よりご意見をお願いいたします。

○田中委員：事務局から説明がありましたが、こちらの表には特別支援学級の児童数が含まれていないかもしれません。そのため、今後児童数が増加する可能性があります。今年度は564名で令和元年は468名だったため約100名増えています。先ほどの説明にあった通り、5月23日からの増築工事により増学級対応を想定しているということでした。平面図で申し上げると、1階の普通教室と大きく書いてある隣の備蓄倉庫、その隣の図工室、2階の理科室に普通教室が入る想定で計3教室を来年度から確保できる予定です。ただ、算数少人数教室がありません。そのため、図書室を算数少人数教室として教室の1/3から1/4のスペースを確保して使用しています。それを踏まえると、3教室確保しても算数少人数教室を確保しなければならず、さらに教室そのものがとても狭い状況です。特に現在の5年生が40名ずつの2学級で、ロッカーや机などのスペースが全くないとても狭い中で使用しています。そのため、改築の際は、柳町小学校の例にあったようなゆとりのある広いスペースの教室が望ましいと考えています。また、柳町小学校のように6教室確保することは難しいと思いますが、算数少人数の教室を確保していただきたいです。それから児童数の増加に伴い、教員も増えます。今年度も1学級増えたことにより、職員室に教員の机が入らない状況がありました。今年度は何とか工夫をして机のスペースを確保出来ましたが、来年度からクラス数が増加していく中ではそもそも職員室が対応出来ない状況です。そのため、職員室のスペースも確保していかなければなりません。

同窓会長の春名委員からお話があったように、当校のシンボルとして大きな椎の木があります。これから設計の段階に入っていくと思いますが、シンボルの椎の木はぜひ残してください。その他にも、お地蔵さんや石碑、友の池があります。同窓会や卒業生が関わって作っていただいたものです。こちらは小日向台町幼稚園とも共有して使用しています。また、友の池と併せて、自然園と畑の活用も行っています。それらも含めて残すことをご検討ください。以上です。

○八木委員長：ありがとうございました。

資料第4号では、児童数が大体同じ規模である、現在改築中の柳町小学校と、現在の小日向台町小学校を比べたところ、黄色い線で塗られた箇所が小日向台町小学校にはない教室であると説明しました。資料第3号では、児童数が今後も増加していくと予想している内容でした。田中校長からは、児童数の増加、教室のスペースが狭いこと、算数少人数教室のスペースの確保、教員の増加に伴い職員室が狭くなっていること、それから椎の木やその他シンボルを残して欲しいというご意見を伺いました。現段階ではご要望をお聞きし、今後全体の設計の中で考えていくこととなります。現時点で、ご意見・ご質問のある方はお願いします。

(議 論)

○野村委員：少人数教室の主旨について教えてください。

○田中委員：少人数教室は、算数の授業において習熟度別に分けて学習を進めていくための教室です。3クラスあれば4段階に分け、それぞれ児童の習熟度に応じて進めていくための少人数制度、学習形態です。

○野村委員：ありがとうございます。それから給食室というのは調理室という解釈でよろしいでしょうか。

○事務局：はい、その通りです。

○野村委員：校長先生から椎の木を残して欲しいとお話がありましたが、ごもったもなご意見だと思います。町会や地域、PTAとしても、椎の木を小日向台町小学校のシンボルだと捉えています。私が通っていた高校にも、正面玄関に大きなヒマラヤ杉があり高校のシンボルでした。校舎が都立と国立で分割される際に、その木は都立校舎側に残したという経緯がありました。何としてでも小日向台町小学校の椎の木は残すべきだと思います。校長先生から池についてのお話がありますが、ビオトープのような池で生き物の観察などの学校教育として必要不可欠な施設だと考えています。こちらの資料の中に校庭や体育館、プールなどの施設が何もありませんでした。それはなぜでしょうか。

○木村副委員長：体育館も運動場もプールも大切な学校施設ですので、改築の際はきちんと整備していきたいと考えています。

○春名委員：椎の木についての話題が出ましたが、校歌に出てきたり、会の名前であったり、あらゆるところで、椎の木という名前を使用しています。私たちの同窓会の意向としては、椎の木は残していただきたいです。

資料第5号の工期についてです。皆様の意見で一体的改築という方向で進めることになりましたが、令和5年に完成という工期に変更はないのでしょうか。

○事務局：資料第5号につきましては、まもなく着工する増築工事のスケジュールになります。今回の建替えの検討とは関係がないものです。

○八木委員長：資料第5号については、また後程ご説明いたします。

○福田委員：田中校長からお話がありましたが、幼稚園でも畑でお芋ほりを行っており、自然に触れられることは良い環境の一つだと考えています。幼稚園には桜の木や様々な植物があり、動物も飼っています。それらの自然や椎の木も含めて、畑や自然園をそのまま残していただきたいです。柳町小学校の改築工事について、どれくらいの工期がかかるのか目安で構わないので教えてください。

○事務局：柳町小学校の改築工事については、令和2年5月に着工し、完全竣工は令和8年11月を予定しており、6年以上の工期が掛かります。一度に全て建てることは出来ないため、何棟かに分けて建設します。そのため、工期に時間を要してしまいます。また、小日向台町小学校でも埋蔵文化財調査を先日行っていましたが、その影響で工期が遅れてしまうことも考えられます。

○八木委員長：こちらも適切なスケジュールを提示したいと考えていますが、そうはいかない事由が発生することを考慮しています。

○野村委員：柳町小学校の令和2年から令和8年の工期ということは、部分的に建築していく形をとっているのでしょうか。

○事務局：おっしゃる通りです。現在建築をしている建物は柳町子どもの森、小学校の体育館、小学校のプールが入る建物です。令和2年5月に着工し、令和5年1月の年明け早々には完成する予定です。その後、小学校、児童館、育成室の建物を建てます。こちらの建物の完成が、令和7年7月を予定しています。さらに、最終的には現在の柳町小学校の校舎を全て解体し、広い校庭を整備する計画があります。校庭整備の完了が令和8年11月を予定しています。

○野村委員：その間、校庭の使用は大幅に制約されてしまうことになるのでしょうか。

○事務局：柳町小学校の改築工事については、建て替えのための仮校舎を建てない計画で進めています。そのため、基本的に校庭が狭くなることはありません。しかし、令和7年から8年にかけて校庭整

備をする際は校庭が使用出来なくなります。

○木村副委員長：柳町小学校の話でしたが、先行して誠之小学校も改築工事を進めています。誠之小学校に関しては、校庭に仮校舎を設置して建設しました。校庭がなくなったため、その間、近隣の東京大学農学部のグラウンドを利用して体育の授業を行っていました。現在は、六義公園運動場を借りて体育の授業を行っています。小日向台町小学校も改築する方法によって、校庭が使用できないことも考えられます。それについては、我々も校庭の代替え地などを踏まえながら計画をしていく必要があります。校庭が一時的に使用できないことは十分考えられることです。

○春名委員：資料第3号の1年生の人数の変遷について心配しています。先程のお話だと改築工期に7年程要するとのことで、皆様は教室の不足について心配していますが、私は建設中の小学校に新1年生を入学させる親がいるのだろうかと考えています。小日向台町小学校が7年経った際に生き残ることが出来るのか大変心配しています。以前ですが、地域の学校が改築する際に工事中の小学校には入学せず、他の小学校に入学してしまうということがありました。建築中の小学校に新1年生を入学させる親はおそらくいないと思います。

○木村副委員長：現在先行して柳町小学校、明化小学校が改築工事を進めています。柳町小学校の状況から説明いたしますと、工期に入っても児童数は増えている状況です。明化小学校についても、児童数は基本的に横ばいでやや増加している傾向です。改築期間中であっても、地域に児童が住んでいる以上は問題ないと考えています。また、文京区では学区域制を敷いているため、学区域で指定されている小学校に通学することが基本前提であります。今後の児童推計においても、地域から児童がいなくなってしまうことはないかと予測しています。

○酒井委員：増築校舎も含めた現況の校舎も収まる建築案を提案いたします。建築面積の全てに地下を作り、2階建ての建物を建築すると現況よりもやや大きめの建坪で、本年度の増築校舎も含めた現況の校舎も収まる計画が可能だと考えています。10mの高さ制限がある中で、3階建てにして建ぺい率を低くする案を以前、耳にしました。しかし、高い建物は住宅地としては好ましくないため2階建てが望ましいと思っています。また、屋上を高いフェンスで囲むことで児童が身体を動かすことのできる空間として活用できると考えています。自然園については建物敷地面積に含まれていますが、教育環境に欠かすことのできない場所のため、そのままの形で残して欲しいです。児童数の10年単位の推移では減少が見込まれている中、現時点の必要教室数に合わせることも大切ですが、持続可能な教育の場として適切な教室数について考えていただき、数十年後も広い校舎を保てるようにしていただきたいです。教育現場は大きく変化しています。必要教室数を増やして少人数学級を基本思想としているようですが、先生方や教育委員会の目指したいとしている設備が従来の教室数を数えるだけで良いのか先生方のご意見とご要望をお聞きしたいです。私の思いつきですが特別教室を一つ減らすならば、水と熱源と頑丈な天板があれば、調理実習と科学実験は同じスペースで可能ではないかと考えました。特別教室だけではなく、何をどのように教え体験するかは今後大きく変化していくと考えています。小日向台町小では、柔軟に考えていただきたいです。教室数ですが、例えば、80名の40人2クラスが

81名の27人3クラスになった際に応用が可能なかと心配しています。設計と建築で数年掛かる中、その後児童数の減少が始まるとの予測があるならば、将来を見据えた設計をしていただけるように期待しています。

○八木委員長：只今伺ったご意見ですが、今後建物の改築を検討する際に改めてお話を進めさせていただくという形でよろしいでしょうか。

○酒井委員：はい。

○春名委員：小日向台町小学校の校歴室の地下に同窓会、もしくは学校のとても古い資料があります。ぜひ区の資料室で保管していただくことを検討してください。

○木村副委員長：実物を拝見しない事には申し上げにくいことではありますが、そのようなご意見があったということで聞き取りをさせていただきます。現在先行して行っている誠之小学校の例を挙げると、そのような貴重な資料については校歴室を設けて子どもたちが閲覧できるようにしています。改築の際には、そのようなことも視野に入れて進めていきたいと考えています。

○八木委員長：本日でご意見が最後ということではありません。まずは皆様のご意見を伺っています。そこから記録を作成し、ご自身で発言した言葉を再度確認していただき、さらに発言したいことがありましたら次回ご発言いただく形で進めております。

他にご意見があれば、お伺いいたします。

では、こちらの議論は終了させていただきます。

次回、引き続き議論・検討をお願いいたします。

5 その他

小日向台町小学校増築工事の進捗について

○八木委員長：では、次第5その他に移ります。小日向台町小学校増築校舎建設工事の進捗状況について事務局よりご報告いたします。

○事務局：小日向台町小学校増築工事の進捗状況について説明いたします。前回、11月30日の検討委員会の後、体育館の横にあった体育倉庫、砂場、はん登棒を解体する工事を実施しました。その後、2月末までに埋蔵文化財調査を完了しております。今後についてですが、5月23日より工事を開始いたします。工事を開始するに当たり、増設校舎の設置をするため校庭が一定期間狭くなります。8月まで基礎工事を進める予定です。夏休み期間には校庭全面を工事ヤードにし、校庭東側の人工芝の張替え工事も併せて実施します。2学期には工事範囲がやや狭まるため、運動会を現在の校庭で行う予定です。増築校舎については、12月下旬、2学期末までに竣工する予定です。3学期からは既存校舎1階の図工室、備蓄倉庫を増築校舎に移設し、普通教室に改修することで、令和5年度当初には普通教室が計

20 学級確保できる見込みです。令和5年4月頃から校庭南側の道路後退工事を行います。令和5年の夏休みに、既存校舎2階の理科室を普通教室に改修し、普通教室21教室を確保する計画です。工事のスケジュールについては以上です。

○八木委員長：ありがとうございました。こちらは改築についての内容ではなく、児童数の増加に伴う増築についての内容です。ご意見・ご質問のある方はお願いします。

(質疑・応答)

○野村委員：理科室は一時的になくなってしまうのですか。

○事務局：一時的になくなる教室はありません。増築校舎に理科室、図工室、備蓄倉庫を移設します。その後、教室のあった場所を普通教室に改修し、使用します。

○八木委員長：他にご質問はありますでしょうか。
これで増築工事については終了いたします。

今後のスケジュール等について

○八木委員長：今後のスケジュールについては本日の議論を踏まえ、次回は必要諸室の考え方について進めていきます。先程、一体的改築を行うことをご了承いただきました。小学校だけでなく、幼稚園、児童館、育成室を含めた必要諸室のあり方を検討していきます。また、区立幼稚園につきましても、改築を行う場合には、認定こども園として整備することを「文京区教育委員会教育指針」に定めております。次回は認定こども園の概要についても分かりやすく、事務局よりご説明させていただきます。質疑応答を行いながら、必要諸室のあり方について進めていきたいと考えています。

○事務局：それでは、全体を通して、土田先生から何かございますか。

○土田アドバイザー：東京電機大学未来科学部という建築学科で教えています。通常は工学部に属していることが多い建築学科ですが、情報メディアとロボット・メカトロニクス、そこに建築が加わった3分野で学部を形成しています。私自身は都市計画を専門にしています。一方で修士課程では建築計画を専攻し、修士論文では小学校の建築について研究していました。実務では地域街づくりや景観づくりを実践、研究しながら学生を指導しています。今回の議論の中では、数十年先を考えた改築や地域の生活の中心として育まれてきた学校の思い出などの様々なご意見がありました。私が景観づくりを行うにあたり、プレイスデザインやセンス・オブ・プレイスと呼ばれる考え方を重視しています。今回の議題で例えるならば、校舎に留まらず校庭や自然園を含めることで、魂を空間に宿すような哲学的な考え方です。今回、皆様の意向で一体的な改築をする方針になりました。卒業生や地域の方が、これまで小日向台町小学校で培ってきた思い出やその空間に対する思いのたけをぜひ議論の中で伝えてくだ

さい。今後、事務局だけでなく、建築担当者や設計者も議論に関わってくるかと思います。彼らにその思いをバトンタッチ出来るようなものにしていただけると良いと思っています。しかし、教育の現場は私たちが経験したものとは大きく変化し新しくなっています。そのように変化している部分については、私たちが真摯に勉強し対応していかなければなりません。現在、国が進めているオンライン教育によって孤立している児童が多いのではないかという問題があります。サイバー空間では、場所や空間、時間が全く関係なく広がった世界であり、距離感が掴めなくなってしまうのです。だからこそ、地域の思いなどを設計者に引き継ぎ、実際に施設を使用される先生方には児童とともに地域として思い出を育むことができる空間になることを願っております。景観や場所の作りこみをして、数十年経過すると残念ながら建物は傷んできてしまいます。形は失われても心の中で大事にしている気持ちなどを、未来の子供たちへバトンタッチしていくことを皆様に意識していただけると大変嬉しいです。

6 閉会

○事務局：次回の検討委員会につきましては、2か月後の7月を予定しております。今後、2か月おきに第6回まで開催を予定しております。

事務局からは、以上となります。

以上。